

患者向医薬品ガイドの 提供方法・ファイル様式の検討について

【ガイドの活用方法について】

患者向医薬品ガイドの想定される主な活用方法（主なユースケース）

主な ユース ケース	患者自身が入手し、読んで理解				医療者が 患者への説明に活用	
	【ケースA】 患者自らがネット 検索して入手	【ケースB1】 PTPシートのGS1 コードを読み取る ことでガイドを閲 覧	【ケースB2】 薬情にQRコード等 を掲載し、当該 コードから患者が 必要時に閲覧	【ケースC】 電子版お薬手帳等 各種PHRにおける 医薬品の説明とし て活用	【ケースD1】 ガイドを薬剤師等 がそのまま用いて、 紙・タブレットで 患者に説明	【ケースD2】 ガイドを薬剤師等 が加工し、紙・タ ブレットで患者に 説明
ガイド に求め られる 機能等	・ネット検索のされやすさ（検索結果が上位に出るなど） ・PMDAのHPへのアクセス向上 ・情報ソース明示	・GS1コードからガイドにアクセスできる仕組み（既にある）	・QRコードからガイドにアクセスできる仕組み（既にある） ・QRコードの薬情への追加	・医薬品コードからガイドにアクセスできる仕組み（既にある） ・一括DL又はAPI連携※の仕組み	・PMDAのHPへのアクセス向上	・ガイド情報の加工のしやすさ（XML形式等）
	・スマートフォンやタブレットでの閲覧のしやすさ（HTML形式等）					
課題、 制約条 件等	・ネット検索結果の上位化には、広告費が必要 ・PMDAのHPの認知度向上 ・PDF形式であれば、正確な情報である明示は容易（例：マーク付与）	・PTPシート等へのバーコード表示義務化（現状は推奨）が必要 ・アプリの開発、維持管理が必要	・薬情へのQRコード追加の働きかけ（レセコンベンダー等）が必要 ・直接ガイドにリンクする場合は別途URL作成の仕組み構築必要。	・手帳ベンダーへ働きかけが必要 ・一括DL等の仕組み構築が必要 ・（同左）	・医療者のガイドの認知度向上	・XML化に伴うシステム構築、維持管理にコスト（ニーズ把握や費用負担の整理を要する） ・加工のルールがないと、信頼性を損なうおそれ

※API（Application programming interface）連携：あるソフトやプログラムの機能を、別のソフトのインターフェースから読み出す方式

GS1コードやQRコードなどを活用したガイド閲覧までのイメージ

ガイドへの入口

専用アプリ（添文ナビ）による読取り

ケースB1



PTPシート上の
GS1コード

※現在は一部シートのみ

添文ナビを介して医療者向け情報から間接的にアクセスする仕組みは既にあるが、一般向け関連情報に直接アクセスできる仕様のアプリはない

ガイドが掲載された
一般向け関連情報サイト
(まとめサイト)

ケースB2



薬情上のQRコード

※現在は掲載なし

YJコードとの紐づけはあるが、
QRコードの掲載がない

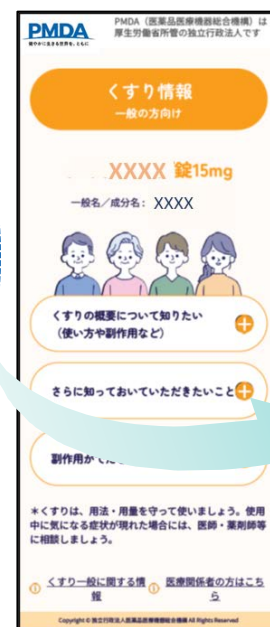
リダイレクト機能により
URL変更に対応

クリックして飛ぶ
(YJコードとの紐づけは既にある)

ケースC

〇〇錠	
〇〇錠	
〇〇錠	

電子版お薬手帳



クリックして
閲覧

患者向医薬品
ガイド

将来的には、それぞれの
コード読取りから直接閲覧
できる仕組み導入も視野に

※現在は、ガイド更新の都度URLが変更になるため実現できていない

GS1コードからの閲覧



※1 おくすり手帳からPMDAウェブサイト上の一般の方向け情報にアクセスできるよう、医療用医薬品のYJコードを利用して関連文書一覧にアクセスできる仕組みも開発

GS1コードを活用したガイドの閲覧のイメージ（電子添文閲覧の応用）

GS1コードを活用した電子添文の閲覧方法をガイド閲覧に応用する場合
（＝GS1コードからガイドへリンクするURLを作成する仕組みを新たに構築）のイメージは次のとおり

ケースB1：GS1コードから閲覧

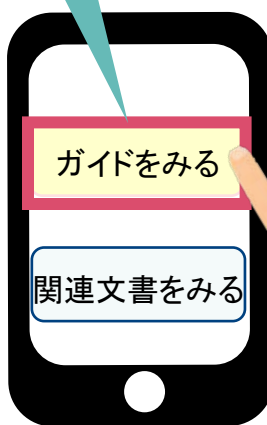


調剤済み薬剤の交付



①スマホアプリで患者が
GS1コードをスキャン

②「患者向医薬品ガイド」
を選択



ガイドをみる

関連文書をみる



③患者向医薬品ガイド
を表示



←一般向け関連文書にリ
ンクするURLを作成する
仕組みは既に構築済み

課題①：全てのPTPシートにGS1コード付与が必要

課題②：GS1コードガイドに直接リンクできるURL作成の仕組みをPMDAが
構築し、その仕様を公表する必要

課題③：②の仕様を参考に、各ベンダーがアプリを開発する必要

QRコードや電子版おくすり手帳からの一般向け関連情報の閲覧

医薬品コード（YJコード、GS1コード）から一般向け関連情報を閲覧する仕組みは既に構築されており、そのイメージは次のとおり



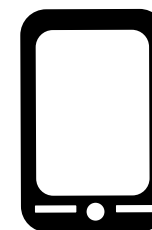
①製薬企業が、電子添文及びそれに紐づくガイド等をPMDAに登録

※「YJコード」又は「GS1コード」をキーとして登録



電子版お薬手帳

②電子版おくすり手帳でYJコード等の情報を取得



リダイレクト
ページ

③YJコード等から関連情報一覧用のリダイレクトページのURLを作成

アプリの機能

④ ③のリダイレクトページURLから一般向け関連情報へリンク



リンク

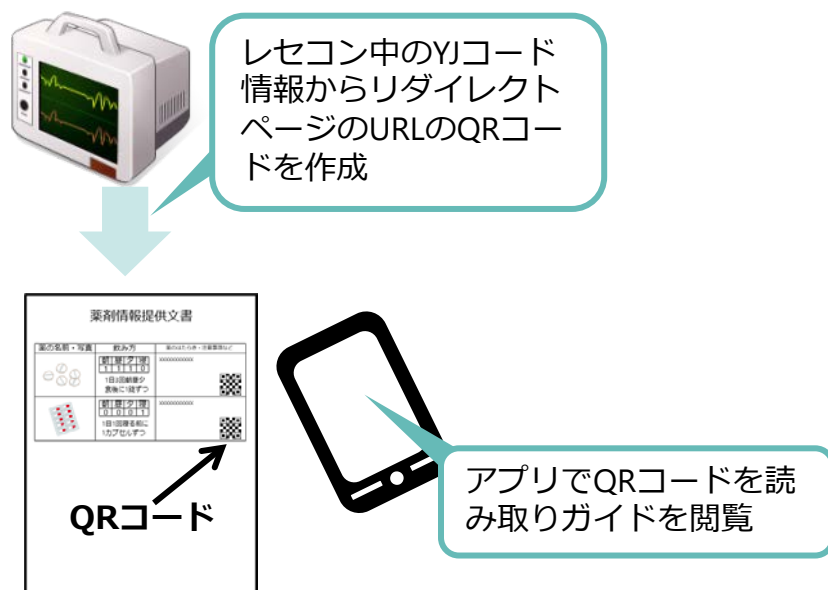
- 読み取ったYJコード等の情報に紐づく電子添文等を①で登録したデータから判定
- その電子添文等が掲載された一般向け関連情報のページにリンク



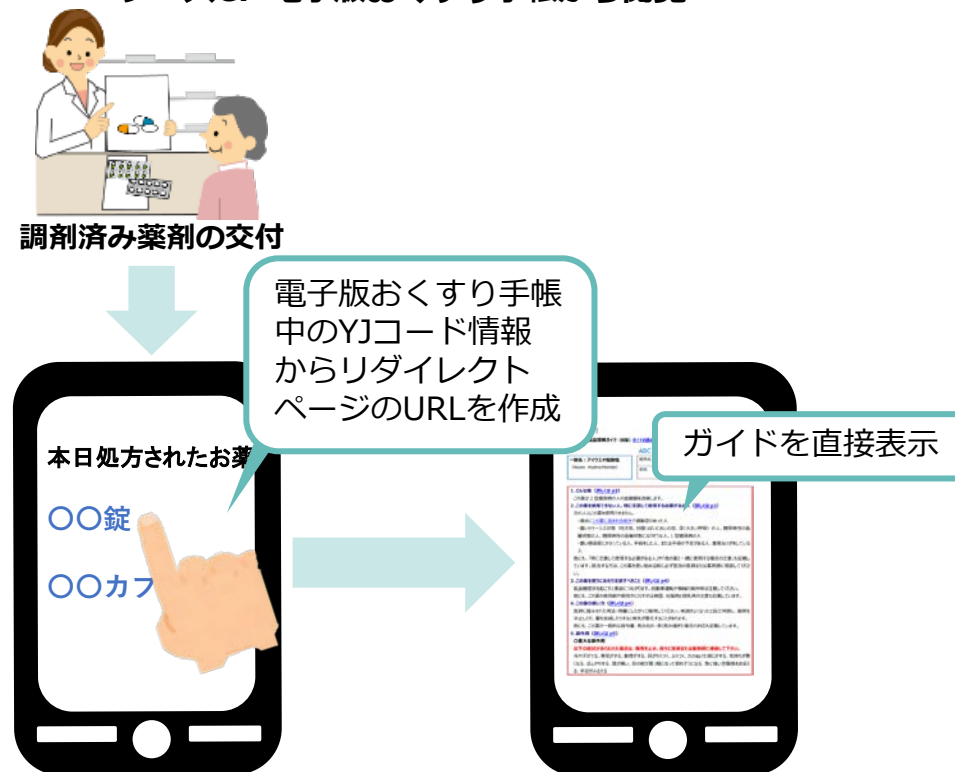
電子版おくすり手帳からのガイドの閲覧のイメージ（前のページの応用）

電子版おくすり手帳から一般向け情報を閲覧する仕組みをガイド閲覧に応用する場合
（＝YJコードからガイドにリンクするURLを作成する仕組みを新たに構築）のイメージは次のとおり

ケースB2. 薬情中のQRコードから閲覧



ケースC. 電子版おくすり手帳から閲覧



課題①：YJコード情報からガイドにリンクするURLを作成できる機能をPMDAに構築し、その仕様を公表する必要

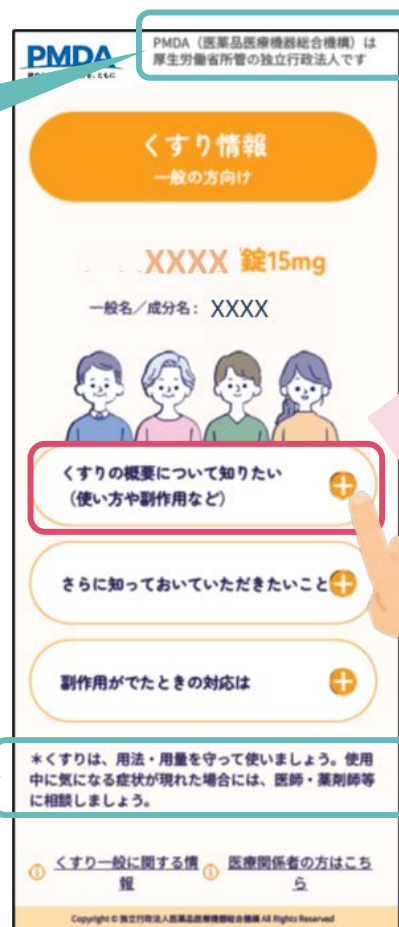
課題②：①の仕様を参考に、各レセコンベンダーが薬情にQRコードを追加可能にする必要（ケースB2）

課題③：①の仕様を参考に、各手帳ベンダーがアプリからガイドを閲覧可能にする必要（ケースC）

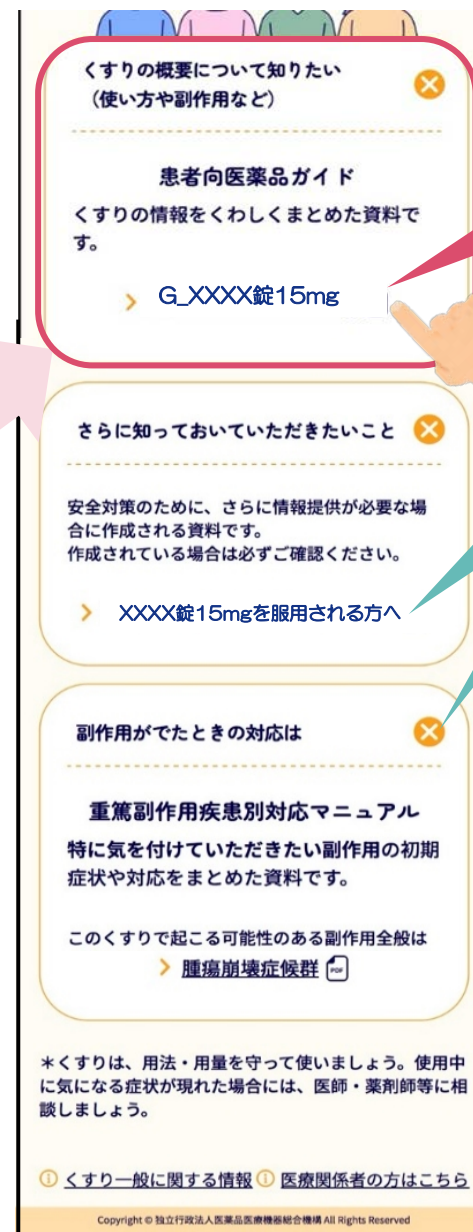
添付文書関連情報画面の変更（ユーザーフレンドリーな画面へ）

信頼度の高いサイトであることを示すため、PMDAの説明を追加

くすりの使用について一般的な注意喚起を追記



タップして展開



+マークをタップするとガイドが表示される

RMPの患者向資材や、該当する重篤副作用疾患別対応マニュアルにもアクセス可能

主な論点（その2）

【ガイドの活用方法について】

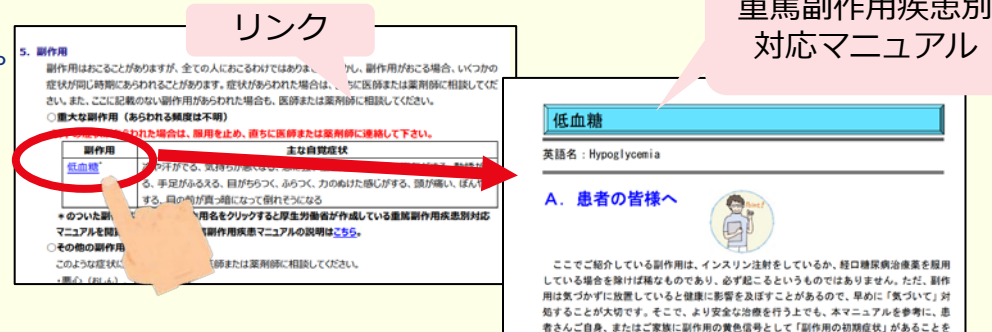
6. 前述のA～Dのケース以外にはないか。
7. これまでは、ケースA（患者自身が検索して入手）が主たるケースとして想定されてきたが、薬が手渡されることを契機にその薬の情報をより知りたくなることも十分想定される。ケースBやC（GS1やQRコード等を活用）も念頭に、提供方法などを深掘りすることでよいか。
※ケースD1やD2は、積極的な取組は見られるものの、現状の医療リソース等を踏まえると、全ての場面で一律に活用することは現実的でないため、一旦想定しないことでよいか。

提供するファイル形式について

現状の患者向医薬品ガイドはPDF形式でHPに掲載されている。閲覧や加工等の観点からファイル形式についても検討が必要。

【閲覧】

スマートフォン等からの閲覧に優れているのはHTML形式。
HTML形式で関連情報へのリンクも可能。



【加工】

要望で想定されているような「資料の引用」「二次加工」を目的とする場合、XML形式は必須でない。
(HTMLやテキストPDFからのコピー＆ペーストでも可能)。

【開発】

XMLの書き方のルール決定、XMLを企業が作成するためのツール開発とメンテナンス等はHTML形式よりも時間と費用がかかる



当面はガイドの定着を重視し、現行のPDF方式での掲載からWeb表示に適したHTML方式での掲載に変更することでよい。

【業界要望書における関連記載】

- ① スマートフォンやタブレット等のデバイスに対応したフォーマットとする。
- ② 患者への情報提供を目的として医療者による資料の引用や二次加工を想定したデータフォーマット（XML等）とする。

データの提供について

データ提供の方法としては、既にあるリダイレクト機能を活用してPMDAのHPに接続する方法の他、一括ダウンロード（DL）やAPI連携により提供する方法がある。

リダイレクトによる提供イメージ



PMDAの該当ページに
直接リンク

電子版お薬手帳等

・ PMDAウェブサイト上に掲載されている**最新**の情報が閲覧できる。

・ **既存の仕組みで可能**。（ただしガイドを直接表示する場合は改修が必要）

・ ベンダー側の改修は必要であるが、費用負担は小さい。

一括DL等による提供イメージ



PMDA DB



ベンダーDB

定期的にデータDL



入口の画面をベンダーの
意向で自由に作成可能

- ・ データ自体を提供するので、アプリ等のベンダー側で**表示の仕方など工夫ができる**。
- ・ メンテナンス等**PMDAサイトにアクセスできない場合でも閲覧可能**。
- ・ 更新があった場合、DLデータに反映されるのに**ラグがある**。
- ・ PMDA側、ベンダー側ともに改修の負担が大きい。
- ・ 二次加工可能とした場合、情報の二次利用に一定のルールが必要。

まずは、既存の仕組みで対応可能なリダイレクト機能を活用した仕組みを推進する方向でよい

**参考 患者向医薬品ガイド情報の加工のしやすさ
について（新垣委員 提出資料）**

はじめに

【第3回患者向医薬品ガイド検討会資料より抜粋】

患者向医薬品ガイドの想定される主な活用方法（主なユースケース）

主なユースケース	患者自身が入手し、読んで理解				医療者が患者への説明に活用	
	【ケースA】 患者自らがネット検索して入手	【ケースB1】 PTPシートのGS1コードを読み取ることでガイドを閲覧	【ケースB2】 薬情にQRコード等を掲載し、当該コードから患者が必要時に閲覧	【ケースC】 電子版お薬手帳等各種PHRにおける医薬品の説明として活用	【ケースD1】 ガイドを薬剤師等がそのまま用いて、紙・タブレットで患者に説明	【ケースD2】 ガイドを薬剤師等が加工し、紙・タブレットで患者に説明
ガイドに求められる機能等	・ネット検索のされやすさ（検索結果が上位に出るなど） ・PMDAのHPへのアクセス向上 ・情報ソース明示	・GS1コードからガイドにアクセスできる仕組み（既にある）	・QRコードからガイドにアクセスできる仕組み（既にある） ・QRコードの薬情への追加	・医薬品コードからガイドにアクセスできる仕組み（既にある） ・一括DL又はAPI連携※の仕組み	・PMDAのHPへのアクセス向上	・ガイド情報の加工のしやすさ（XML形式等）
	・スマートフォンやタブレットでの閲覧のしやすさ（HTML形式等）					
課題、制約条件等	・ネット検索結果の上位化には、広告費が必要 ・PMDAのHPの認知度向上 ・PDF形式であれば、正確な情報である明示は容易（例：マーク付与）	・PTPシート等へのバーコード表示義務化（現状は推奨）が必要 ・アプリの開発、維持管理が必要	・薬情へのQRコード追加の働きかけ（レセコンベンダー等）が必要 ・直接ガイドにリンクする場合は別途URL作成の仕組み構築必要。	・手帳ベンダーへの働きかけが必要 ・一括DL等の仕組み構築が必要 ・（同左）	・医療者のガイドの認知度向上	・XML化に伴うシステム構築、維持管理にコスト（ニーズ把握や費用負担の整理を要する） ・加工のルールがないと、信頼性を損なうおそれ

※API（Application programming interface）連携：あるソフトやプログラムの機能を、別のソフトのインターフェースから読み出す方式

ガイド情報の形式について

PDFについて

PDFとは

PDFとは、Portable Document Format（ポータブル・ドキュメント・フォーマット）の略で、Adobe社が開発した電子文書のファイル形式です。

特徴は、文書の内容やレイアウトを固定化して保存することができるため、共有性が非常に高いことや、スマートフォンやタブレット等様々なデバイスやプラットフォームで閲覧できることや、セキュリティや圧縮などの機能を備えていることが挙げられます。

出展：PDFとはいったい何ですか？| 今さらきけないPDFの全て
(<https://nageppa.jp/column/whatispdf/>)

ガイド情報の形式について

PDFのメリットとデメリット

【メリット】

多様なデバイスでの共有と閲覧が可能

PDFは、WindowsやMacなどのパソコンだけでなく、スマートフォンやタブレットなどのモバイルデバイスでも閲覧できる汎用性の高いファイル形式です。また、インターネット上でも簡単に共有することができるため、メールやクラウドストレージなどを通じて相手に送ったり、Webサイトへの掲載が可能です。

コピー＆ペーストが可能

ガイドを薬剤師等が加工し、紙・タブレットで患者に説明が可能です。

【デメリット】

編集や変更が困難

PDFは、文書の内容やレイアウトを固定化して保存することができるため、編集や変更が困難なファイル形式ともいえます。例えば、PDFに書かれた文字や画像の削除や追加、移動をさせたりする際には、専用ソフトが必要となります。

ガイド情報の形式について

PDFファイル サンプルイメージ

患者向医薬品ガイド（作成●年●月、更新●年●月）

〇〇、〇〇、〇〇 ※販売名

一般名： (英名)	販売名 〇〇	〇〇
	形状 	

(略)

4. この薬の使い方

(内服剤、外用剤の場合) 医師に指示された用法・用量にしたがって服用（使用）してください。体調がよくなったと自己判断し、服用（使用）を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。

(注射剤（自己注を除く）の場合) この薬は注射薬です。

5. 副作用

(一部のものの頻度が明らかな場合) あらわれる頻度が高い（上位3つ）副作用は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

(頻度不明のみの場合) 副作用の一例は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

主な副作用	主な自覚症状
	※「患者向け副作用用語集」に従って、左記の副作用に対応する主な自覚症状を全て記載する。

(略)

7. 問い合わせ先

症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：〇〇〇〇、電話：フリーダイヤル〇-〇-〇、受付時間：〇時～〇時

ガイド情報の形式について

PDFファイル サンプルイメージ(PC)

スクロールを利用しながら、医薬品ガイドを読むことになります

患者向医薬品ガイド（作成●年●月、更新●年●月）

〇〇、〇〇、〇〇 ※販売名

一般名： (英名)	販売名 形状	〇〇 	〇〇 
--------------	-----------	---	---

(略)

4. この薬の使い方

(内服剤、外用剤の場合) 医師に指示された用法・用量にしたがって服用(使用)してください。体調がよくなったと自己判断し、服用(使用)を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。

(注射剤(自己注を除く)の場合) この薬は注射薬です。

5. 副作用

(一部のものの頻度が明らかな場合) あらわれる頻度が高い(上位3つ)副作用は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

(頻度不明のみの場合) 副作用の一例は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

主な副作用	主な自覚症状
	※「患者向け副作用用語集」に従って、左記の副作用に対応する主な自覚症状を全て記載する。

(略)

7. 問い合わせ先

症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：〇〇〇〇、電話：フリーダイヤル〇-〇-〇、受付時間：〇時～〇時

閲覧画面を狭めると…



患者向医薬品ガイド（作成●年●月、更新●年●月）

〇〇、〇〇、〇〇 ※販売名

一般名： (英名)	販売名 形状	〇〇 	〇〇 
--------------	-----------	---	---

(略)

4. この薬の使い方

(内服剤、外用剤の場合) 医師に指示された用法・用量にしたがって服用(使用)してください。体調がよくなったと自己判断し、服用(使用)を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。

(注射剤(自己注を除く)の場合) この薬は注射薬です。

5. 副作用

(一部のものの頻度が明らかな場合) あらわれる頻度が高い(上位3つ)副作用は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

(頻度不明のみの場合) 副作用の一例は以下のとおりです。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

主な副作用	主な自覚症状
	※「患者向け副作用用語集」に従って、左記の副作用に対応する主な自覚症状を全て記載する。

(略)

7. 問い合わせ先

症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：〇〇〇〇、電話：フリーダイヤル〇-〇-〇、受付時間：〇時～〇時

ガイド情報の形式について

PDFファイル サンプルイメージ(スマホ(iPhone))

患者向医薬品ガイド（作成●年●月、更新●年●月）

〇〇、〇〇、〇〇 ※販売名

一般名： (英名)	販売名 形状	〇〇 	〇〇 
--------------	-----------	---	---

(略)

4. この薬の使い方

(内服剤、外用剤の場合) 医師に指示された用法・用量にしたがって服用(使用)してください。体調がよくなったと自己判断し、服用(使用)を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。

(注射剤(自己注を除く)の場合) この薬は注射薬です。

5. 副作用

(一部のものの頻度が明らかな場合) あらわれる頻度が高い(上位3つ)副作用は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

(頻度不明のみの場合) 副作用の一例は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

主な副作用	主な自覚症状
	※「患者向け副作用用語集」に従って、左記の副作用に対応する主な自覚症状を全て記載する。

(略)

7. 問い合わせ先

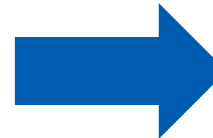
症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：〇〇〇〇、電話：フリーダイヤル〇-〇-〇、受付時間：〇時～〇時

2本の指でスマホ画面を拡大して
医薬品情報を閲覧することになります。

スマホで閲覧すると…



患者向医薬品ガイド（作成●年●月、更新●年●月）

〇〇、〇〇、〇〇 ※販売名

一般名： (英名)	販売名 形状	〇〇 	〇〇 
--------------	-----------	---	---

(略)

4. この薬の使い方

(内服剤、外用剤の場合) 医師に指示された用法・用量にしたがって服用(使用)してください。体調がよくなったと自己判断し、服用(使用)を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。

(注射剤(自己注を除く)の場合) この薬は注射薬です。

5. 副作用

(一部のものの頻度が明らかな場合) あらわれる頻度が高い(上位3つ)副作用は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

(頻度不明のみの場合) 副作用の一例は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

主な副作用	主な自覚症状
	※「患者向け副作用用語集」に従って、左記の副作用に対応する主な自覚症状を全て記載する。

(略)

7. 問い合わせ先

症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：〇〇〇〇、電話：フリーダイヤル〇-〇-〇、受付時間：〇時～〇時

ガイド情報の形式について

HTMLについて

HTMLとは

Hyper Text Markup Language

ホームページを作る時に使用される言語です

マークアップとは
文章構造などを、コンピュータが理解できるように目印をつけて意味付けすること

意味付けをおこなうときは、タグを利用します

例: `<h1>...</h1>`、`<p>...</p>`

ガイド情報の形式について

HTMLのメリットとデメリット

【メリット】

広く普及している

ほとんどのウェブブラウザがHTMLをサポートしており、ウェブページの標準言語として広く使用されています。

互換性

HTMLは異なるプラットフォームやデバイス間での互換性が高いです。

コピー＆ペーストが可能

ガイドを薬剤師等が加工し、紙・タブレットで患者に説明が可能です。

【デメリット】

動的コンテンツの制限

HTMLは静的なコンテンツの作成には適していますが、

動的なコンテンツを作成するにはサーバーサイドのスクリプトやフレームワークが必要です。

ガイド情報の形式について

HTMLファイル サンプルイメージ

患者向医薬品ガイド（作成●年●月、更新●年●月）

〇〇、〇〇、〇〇 ※販売名

一般名： (英名)	販売名	〇〇	〇〇
	形状		

(略)

4.この薬の使い方

（内服剤、外用剤の場合）医師に指示された用法・用量にしたがって服用（使用）してください。体調がよくなったと自己判断し、服用（使用）を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。

（注射剤（自己注を除く）の場合）この薬は注射薬です。

5.副作用

（一部のものの頻度が明らかな場合）あらわれる頻度が高い（上位3つ）副作用は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

（頻度不明のみの場合）副作用の一例は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

主な副作用	主な自覚症状
	※「患者向け副作用用語集」に従って、左記の副作用に対応する主な自覚症状を全て記載する。

(略)

7.問い合わせ先

症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：〇〇〇〇、電話：フリーダイヤル〇-〇-〇、受付時間：〇時～〇時

ガイド情報の形式について

HTMLファイル サンプルイメージ(PC)

患者向医薬品ガイド (作成●年●月、更新●年●月)

〇〇、〇〇、〇〇 ※販売名

一般名： (英名)	販売名 〇〇	〇〇
	形状	

(略)

4.この薬の使い方

(内服剤、外用剤の場合) 医師に指示された用法・用量にしたがって服用(使用)してください。体調がよくなったと自己判断し、服用(使用)を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。

(注射剤(自己注を除く)の場合) この薬は注射薬です。

5.副作用

(一部のものの頻度が明らかな場合) あらわれる頻度が高い(上位3つ) 副作用は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

(頻度不明のみの場合) 副作用の一例は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

主な副作用	主な自覚症状
	※「患者向け副作用用語集」に従って、左記の副作用に対応する主な自覚症状を全て記載する。

(略)

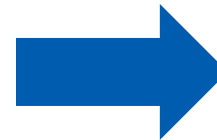
7.問い合わせ先

症状、使用方法、副作用などの詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：〇〇〇〇、電話：フリーダイヤル〇-〇-〇、受付時間：〇時～〇時

閲覧画面を狭めると…



縦のスクロールバーが表示

患者向医薬品ガイド (作成●年●月、更新●年●月)

〇〇、〇〇、〇〇 ※販売名

一般名： (英名)	販売名 〇〇	〇〇
	形状	

(略)

4.この薬の使い方

(内服剤、外用剤の場合) 医師に指示された用法・用量にしたがって服用(使用)してください。体調がよくなったと自己判断し、服用(使用)を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。

(注射剤(自己注を除く)の場合) この薬は注射薬です。

5.副作用

(一部のものの頻度が明らかな場合) あらわれる頻度が高い(上位3つ) 副作用は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

(頻度不明のみの場合) 副作用の一例は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

主な副作用	主な自覚症状
	※「患者向け副作用用語集」に従って、左記の副作用に対応する主な自覚症状を全て記載する。

(略)

7.問い合わせ先

ガイド情報の形式について

サンプルイメージ比較(PC)

縦のスクロールを利用しながら、
医薬品ガイドを読むことになります

患者向医薬品ガイド（作成●年●月、更新●年●月）

〇〇、〇〇、〇〇 ※販売名

一般名： （英名）	販売名	〇〇	〇〇
	形状		

（略）

4.この薬の使い方

（内服剤、外用剤の場合）医師に指示された用法・用量にしたがって自己判断し、服用（使用）を中止したり、量を加減したりしないで服用（使用）してください。（注射剤（自己注を除く）の場合）この薬は注射薬です。

5.副作用

（一部のものの頻度が明らかな場合）あらわれる頻度が高い（上位3つ）副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

（頻度不明のみの場合）副作用の一例は以下のとおりです。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

主な副作用	
	※「患者向け副作用用語集」に従って、左記の副作用に対応する主な副作用を全て記載する。

（略）

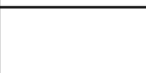
7.問い合わせ先

症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。
製造販売会社：〇〇〇〇、電話：フリーダイヤル〇-〇-〇、

←PDFファイル

患者向医薬品ガイド（作成●年●月、更新●年●月）

〇〇、〇〇、〇〇 ※販売名

一般名： （英名）	販売名	〇〇	〇〇
	形状		

（略）

4.この薬の使い方

（内服剤、外用剤の場合）医師に指示された用法・用量にしたがって服用（使用）してください。体調がよくなったと自己判断し、服用（使用）を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。

（注射剤（自己注を除く）の場合）この薬は注射薬です。

5.副作用

（一部のものの頻度が明らかな場合）あらわれる頻度が高い（上位3つ）副作用は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

（頻度不明のみの場合）副作用の一例は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

主な副作用	主な自覚症状
	※「患者向け副作用用語集」に従って、左記の副作用に対応する主な自覚症状を全て記載する。

（略）

7.問い合わせ先

←HTMLファイル

ガイド情報の形式について

HTMLファイル サンプルイメージ(スマホ(iPhone))

2本の指でスマホ画面を拡大して
医薬品情報を閲覧することになります。

スマホで閲覧
すると…



患者向医薬品ガイド (作成●年●月、更新●年●月)

〇〇、〇〇、〇〇 〓販売名

一般名： (略)	販売名 〇〇	〇〇
形状	〇〇	〇〇

(略)

4.この薬の使い方

(内服剤、外用剤の場合) 医師に指示された用法・用量にしたがって服用(使用)してください。体調がよくなったと自己判断し、服用(使用)を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。

(注射剤(自己注を除く)の場合) この薬は注射薬です。

5.副作用

(一部のものの頻度が明らかな場合) あらわれる頻度が高い(上位3つ) 副作用は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

(頻度不明のみの場合) 副作用の一例は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

主な副作用	主な自覚症状
	※「患者向け副作用用語集」に従って、左記の副作用に対応する主な自覚症状を全て記載する。

(略)

7.問い合わせ先

症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：〇〇〇〇、電話：フリーダイヤル〇-〇-〇、受付時間：〇時～〇時

患者向医薬品ガイド (作成●年●月、更新●年●月)

〇〇、〇〇、〇〇 〓販売名

一般名： (略)	販売名 〇〇	〇〇
形状	〇〇	〇〇

(略)

4.この薬の使い方

(内服剤、外用剤の場合) 医師に指示された用法・用量にしたがって服用(使用)してください。体調がよくなったと自己判断し、服用(使用)を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。

(注射剤(自己注を除く)の場合) この薬は注射薬です。

5.副作用

(一部のものの頻度が明らかな場合) あらわれる頻度が高い(上位3つ) 副作用は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

(頻度不明のみの場合) 副作用の一例は以下のとおりです。これ以外の副作用もあらわれるおそれがあります。詳細は、主治医や薬剤師にお尋ねいただくか、電子添文などをご確認ください。

主な副作用	主な自覚症状
	※「患者向け副作用用語集」に従って、左記の副作用に対応する主な自覚症状を全て記載する。

(略)

7.問い合わせ先

症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：〇〇〇〇、電話：フリーダイヤル〇-〇-〇、受付時間：〇時～〇時

ガイド情報の形式について

XMLについて

XMLとは

eXtensible Markup Language

タグを自由に決めることができ、データ管理などに使われる言語です。

XMLサンプル

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<patientMedicationInfo>
  <medicine>
    <genericName>アセトアミノフェン</genericName>
    <brandName>タイレノール</brandName>
    <form>錠剤</form>
    <usage>1日3回、必要に応じて服用</usage>
    <sideEffects>頭痛、めまい</sideEffects>
    <contactInfo>大塚製薬 お客様相談室: 0120-123-456</contactInfo>
  </medicine>
  <medicine>
    <genericName>イブプロフェン</genericName>
    <brandName>ブルフェン</brandName>
    <form>カプセル</form>
    <usage>1日2回、食後に服用</usage>
    <sideEffects>胃痛、吐き気</sideEffects>
    <contactInfo>バイエル薬品 お客様相談室: 0120-789-012</contactInfo>
  </medicine>
</patientMedicationInfo>
```

XMLの要素

- <medicine>: 医薬品情報を表す要素。複数の<medicine>要素が含まれます。
- <genericName>: 一般名。
- <brandName>: 販売名。
- <form>: 形状。
- <usage>: この薬の使い方。
- <sideEffects>: 副作用。
- <contactInfo>: 問い合わせ先。

ガイド情報の形式について

(補足) XMLとは何ですか？

簡単に言えば、コンピュータ同士のデータを交換する際に、タグと呼ばれるものを付与して、アプリケーションやデータベースへの入出力が間違えないようにするためのスクリプトです。

「XMLというのは、情報を整理して記録するための特別な方法だと思ってください。
例えば、昔撮った写真をアルバムに整理するとき、
写真の場所や日付、誰が写っているかなどを一緒に書き記しますよね。
それによって、後から見返すときに写真の内容がわかりやすく、探しやすいくなります。

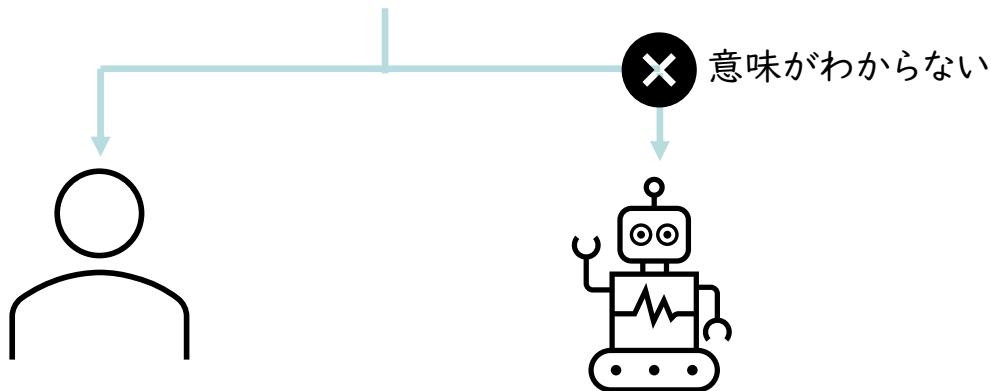
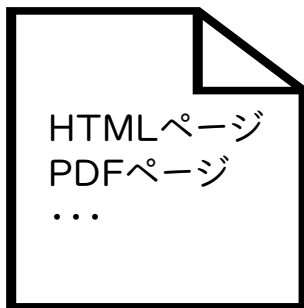
XMLもそれと似ていて、コンピュータが情報をわかりやすく整理して保存するための方法です。
その結果、他のコンピュータやプログラムがその情報を簡単に見つけたり使ったりできるようになります。

ガイド情報の形式について

XML(メタデータ) とは

データに「中身を説明する情報」が付属していない場合、コンピュータはデータの意味が理解できない。
「中身を説明する情報」のことをメタデータといいます。

非構造化データ



構造化データ

